

令和4年度 県立土浦湖北高等学校自己評価表

No. 1

目指す 学校像	・文武両道を柱とする活力ある進学校 ・校訓である「自律・創造・奉仕」の実践を通して、地域・社会に貢献する人材育成 ・信頼と魅力あふれる開かれた学校			
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
本校は文武両道を柱とする活力ある進学校を目指し、学校づくりに取り組んでいる。 令和3年度は、部活動において、コロナ禍による活動制限の中で、陸上競技部、少林寺拳法部が全国大会、剣道部、女子ハンドボール部が関東大会に出場を果たした。また、硬式野球部が土浦市長杯争奪市内高校野球大会で優勝を果たした。その他の運動部も積極的に活動している。また吹奏楽部は学校内外でコンサートを開催する等文化部の活動も活発である。 進学面においては、学力向上を主眼とする取り組みを続けた結果、茨城大学をはじめとする国公立大学に4名合格し、首都圏の難関・中堅私立大学に多数の合格者を出した。引き続き進路意識の高揚と学力の向上を図り、進学校として大学進学率をさらに高めていく必要がある。また、地元企業との情報交換を密にし、安定した就職実績も継続していきたい。 生活面においては、服装・頭髮の指導を継続的に行っている。自転車乗車マナー等の指導をさらに徹底していく必要があるので、豊かな心の育成と併せて継続した指導が必要である。 一方、依存心が強く「自分で決められない」生徒も多い。感謝の気持ちを育み、自立した他人からも頼りにされる生徒の育成が課題である。	学び続ける態度の育成と学力向上	① 学び続ける態度の基本となる予習と復習を徹底させ、家庭学習「0」をなくす。 ② わかる授業を目指し、言語活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実践を継続し、授業改善に取り組む。 ③ 年間指導計画を活用した学習指導の充実と評価の改善を継続する。	B	
	自分で決められる生徒の育成を目指し、それを支援するための個に応じた進路指導の充実	④ 面談指導を重ね、生徒の自己理解と早期の目標設定を推進する。 ⑤ 進路学習、就業体験を通して、望ましい勤労観・職業観を育成する。 ⑥ 進路ガイダンスや大学見学会・外部模試の活用などから、入りたい学校に積極的に挑戦する心を涵養する。 ⑦ 課外等をとおして粘り強くあきらめない学習者の育成を図る。	A	
	規範意識及び安全に関する態度の育成	⑧ ルールを守り、マナーを向上させ、規範意識を高める。 ⑨ 登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。 ⑩ スマートフォン等の安全な利用やルール作りを推進する。 ⑪ 家庭・地域社会及び関係機関と連携し、情報の共有を図り、事故の未然防止に努力する。	A	
	キャリアパスポートを活用し、様々な場面で多様化する生徒に対して、素直に感謝する気持ちを育み、豊かな人間性・社会性を身に付けさせ、自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成	⑫ ホームルーム活動を充実させ、認め合い、支え励まし合う生徒を育む。キャリアパスポートの活用により、生徒自らが学校行事やホームルーム活動などに加えて各教科の学習状況やキャリアを見直し振り返ることで、自身の変容や成長を自己評価する。 ⑬ 学校行事・ボランティア活動の充実に努め、生徒の主体的に取り組む姿勢を涵養し、湖北生としての自信と誇りを持った生徒の育成を目指す。 ⑭ 道德教育・教育相談を充実し、相手の気持ちになって考え、命の大切さがわかる生徒を育成し、いじめのない安心な学校作りをする。	A	
	信頼と活力を生む開かれた学校づくりの推進	⑮ 保護者、地域社会及び中学校等に対する広報活動の充実に努める。 ⑯ 学校Webページや県教委のフォトニュース、進路ニュース、学年通信などを活用して、積極的な情報提供に努める。 ⑰ 教育活動を公開するとともに、外部評価や広聴活動により取組の改善に努める。	B	
	服務規律を遵守し、地域・生徒・保護者から信頼される教職員	⑱ 日頃のコミュニケーション等を通して教職員の良好な関係を作り、学校諸課題に「チーム」として対応する組織づくりをさらに進める。 ⑲ 職員研修の充実を図り、常にコンプライアンス意識を持って行動する教職員を目指す。 ⑳ PDCAサイクルによる評価・改善を行いながら働きやすい職場作りに努め、働き方改革を推進する。	A	
	働き方改革による業務の効率化	㉑ コロナ禍における学校行事の精選を図り、業務の見直しを進める。 ㉒ 部活動の精選や複数顧問制、外部講師の委託などを積極的に進めるなど教員への過重な負担の軽減につとめる。 ㉓ ノー残業デー、長期休業中の時差出勤の推進や「きんむ君」による教職員の勤務実態把握に努めることで、適正な勤務環境の確立を目指す。	B	
	学校業務におけるICT活用の充実	㉔ 授業においてICTを効果的に活用し、個の理解や関心の程度に応じた 学びを構築する。 ㉕ 生徒にICTを積極的に活用させ、情報処理能力や活用能力の向上に努める。 ㉖ 学校HPの充実や緊急情報メールを活用し、学校・生徒・保護者間の情報共有を図り、一層の信頼関係構築に努める。 ㉗ ICTの活用により、職員会議・成績処理・教材準備の効率化を図る。	A	

三つの方針		具体的目標	評価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ○文武両道に励み、多彩な部活動で健やかな心身を育成します。 ○地域社会を輝かせる人材として、郷土を愛する心を育成します。 ○人権を尊重し、他者を思いやる心と道徳的实践力を育成します。	B	B	地域との交流の機会を増やし、異年齢層の方とのコミュニケーションを図る。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ○確かな学力を育み、国公立大学進学を目指すための思考、判断、表現の充実を図ります。 ○ICTを活用し、探究心を高め他者と協働する学習を展開します。 ○文理の選択によって、進路希望を実現するための学力を身に付けます。	A		早期に高い進路目標を設定させ、必要となる学力の向上を図ることが必要である。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ○探究心を持って学業と諸活動に積極的に取り組み文武両道を目指す生徒。 ○他者とコミュニケーションを図り、積極的に協働しようとする生徒。 ○社会に貢献する意欲を持ち、リーダーとして活躍する生徒。	B		本校の生徒会や委員会の生徒が、主体的な取組ができる場を積極的に設ける。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導		あきらめずに学習に取り組ませ、学力の向上を図る。	授業の工夫・改善とともに、家庭学習時間の確保に努める。 ①	B	B	授業力向上に向けた研修に努めるとともに、生徒の家庭学習時間の確保と基礎学力の定着を図らなければならない。
			更なる授業の充実を図るため、授業を公開するなど授業力向上に向けた研修に努める。 ②③	B		
			ICTの活用により、成績処理や教材準備の効率化を図る。 ⑦	A		
教科	国語	基礎学力の向上を図る	小テスト等で、生徒の学習理解度を把握し、不十分な生徒には補習や追試を実施する。 ①②	B	B	新学習指導要領を見据え、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けさせることや、「主体的・対話的で深い学び」を促進すること、従来以上にICTを活用することなど、今後の教育活動で重要と考えられる点に関して、今年度は視学官や国語科指導主事の指導を受けながら取り組むことができた。来年度は更に探求していくことが必要である。そのために、教科内での連携を重視し、意見交換や情報共有を行っていく。課題として、今年度は漢字検定が3回中1回の実施となっていた。例年の日程通りよりは審査に重ならない、または審査の前夜でない日程設定を考える。
		家庭学習習慣の定着に努める	授業で不十分な部分を補うために、課題プリント及び週末課題を用意し、計画的に取り組ませる。 ①	B		
		授業の理解、定着を図る	ノート点検や机間指導を積極的に行い、生徒の理解度を確認するとともに、学習の定着を図る。 ①②	B		
		国語力の向上	言語活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを意識した育む授業実践に努める。 ②	A		
		自分の考えを文章に表現する力を付けさせる	年間3回の漢字検定の校内実施により、国語力の向上と定着を図る。 ②	C		
		発展的な学力の育成を図る	小論文を授業に取り入れ、文章を実際に書かせる中で、自分の考えを育て、意見とその根拠を筋道立てて述べる力を身に付けさせる。 ②	A		
		教科内での連携を深め、業務の効率化を図る	課外、習熟度別学習、校外模試の活用等、生徒の能力や進路目標に応じた学習内容・学習形態を工夫することによって、発展的な学力の育成を図る。 ①	B		
	地理歴史	基礎学力の向上を図る	日頃のコミュニケーション等を通して教科内での連携を深め、相互に協力しやすい関係作りに努める。ICTを活用し、教材準備や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。 ⑬⑭⑰⑲	A	B	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、作業的・体験的な授業の改善、探求学習の導入やICT活用の授業などが求められており、より担当科目教師間の連携強化や授業展開の工夫などを図っていく。ICTを活用した小テストを行い、知識の定着を目指していく。
			学習内容の定着を図るため、授業終了後や放課後に質問の時間を設ける。 ②	B		
		家庭学習習慣の定着を図る	定期考査や課題テスト、各単元の確認テストを利用して、学習の理解度を把握する。 ②	A		
			長期休業期間中の宿題や課題プリントを定期的に点検し、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ①	B		
		生徒の意欲を喚起する授業への改善に努める	授業での学びや活動を記録し、今後の学びや活動につなげていく。 ②③	B		
			教科担当者同士で授業を公開し、教科内で授業内容・方法の改善に努める。 ②③	B		
		教科内での連携を深め、業務の効率化を図る	各種研究会に積極的に参加し、教科会で報告するとともに自己研鑽に努める。 ②	B		
	公民	基礎学力の向上を図る	教科会や相互授業参観等を通して連携を深め、お互いに協力や助言しやすい関係作りに努める。ICTを活用し、教材研究や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。 ⑬⑭⑰⑲	B	B	公民科の科目は3学年に設定され、進路や実社会への参加に直結しているので、人間としての在り方・生き方(法やルール、政治的教養等)を育成・習得するため、より実践的・体験的な活動を推進、導入していく。ICTを活用した小テストを行い、知識の定着を目指していく。
			学習内容の定着を図るため、授業終了後や放課後に質問の時間を設ける。 ②	B		
		家庭学習習慣の定着を図る	定期考査や課題テスト、各単元の確認テスト等を利用して、学習の理解度を把握する。 ②	A		
			長期休業期間中の宿題や課題プリント等を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。 ①	B		
		生徒の意欲を喚起する授業の改善に努める	実物教材やプレゼンテーションソフトなどの教材を工夫し、生徒の授業への意欲を喚起する。 ②	A		
			教科担当者同士で相互に授業を参観し、教科内で授業内容・方法の改善に努める。 ②③	B		
		教科内での連携を深め、業務の効率化を図る	各種研究会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。 ②	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	数 学	意欲的に授業に臨ませる	生徒が意欲的に取り組む授業の実践方法を研究し、定期的に教科会で協議・報告し合う。 ②	A	B	生徒が意欲的に学習に取り組めるよう丁寧な指導を行った。課外では進路に応じた教材を使い、実力をつけた。調査で点数のとれない生徒のために対策として放課後の補習課外を数日間かけて行った。今後はICTを効果的に活用し、よりよい授業を研究していく。
			授業担当者間で相互に授業観察を行い、生徒の意欲を引き出す授業展開ができているか研究・協議を行う。 ②⑬	B		
			ICTを活用し、生徒の授業の内容理解や意欲の向上につなげる。 ⑱	B		
		年間授業計画に沿った授業を展開する	定期的に授業担当者間で年間学習指導計画の見直しを行い、次年度に生かせるよう検討・報告する。 ③⑱	B		
		家庭学習習慣の定着を図る	傍用問題集等の課題を提出させ点検を行い、家庭学習の習慣付けに努める。 ①	A		
			定期的に確認小テスト等を実施し、計画的・継続的な反復学習に取り組ませ、自力解法力を身に付けさせる。 ①	A		
	理 科	一人一人の自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る	課題や小テストを利用して学習の理解度を確認し、家庭学習の習慣が身に付くよう指導する。 ①	B	B	・実験・観察を充実したり、ICTを活用したりすることで、思考力や表現力を向上するような授業改善が必要である。 □ □
			生徒の授業への取組を評価し、その上で理解が不十分な生徒には、補習等を実施し基礎学力の定着を図る。 ①②	A		
			実験・観察を積極的に取り入れ、その結果をまとめさせることで思考力や表現力を養う。 ②	B		
			各自で指導法の改善に努めるとともに、科内で話し合いを持ち科全体で指導法の工夫・改善を進める。 ②⑱	B		
		生徒の実態に応じた教育課程の編成に取り組む	年度当初に年間指導計画を提示するとともに、生徒の実態にあった授業内容となるようその改善に努める。 ③	A		
	保 健 体 育	・生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質・能力を育てる	生徒の実態や施設、クラス数等の実情に応じた年間指導計画を作成する。 ①②③	B	B	今年度も、コロナ感染対策を行った上で授業を実施したため、体育において、ハイタッチなど、仲間とともに喜びあうことができなかったり、ともに触れ合いながら行うことができなかったため、来年こそ、仲間と、もっと触れ合いながら体育をできるように考えていきたい。また、保健におけるディベートも増やし、マスクを取って、相手の表情を見ながら実施できるようにさせたい。
			運動領域は中学校との関連を図り、学年進行に応じた選択ときめ細かな指導を行う。 ①②③	B		
			安全に留意して運動実践し、3年間で生涯通しての「マイスポーツ」の獲得を目指す。 ①	A		
		・適切な生活習慣を身に付け、自己の健康を管理し改善していく能力を培う	運動を通して運営、仲間との交流、協調性、ルールへの遵守、マナーなど社会性を育む。 ⑧	B		
			実技指導研修会等に積極的に参加し、資質の向上に努める。 ①②	B		
			ロールプレイやディベートを用い、健康なライフスタイルを確立する観点に立った授業を展開する。 ②	B		
		・心と体を一体として捉え、体育と保健を関連させた指導を目指す	飲酒、喫煙、薬物乱用、性感染症等生徒を取り巻く身近な問題は特に重点的に指導する。 ①②③	A		
			交通安全の指導では、交通ルールを遵守することが自らを守ることを理解させる。 ⑨	A		
			豊かな人生「クオリティーオブライフ」を実践できる資質を育む。 ⑫	B		
		・教科内での連携を深め、業務の効率化を図る	心と体を一体化して捉えて自分や他人の体調に気付き、体の調子を整える能力を育む。 ①②	B		
			健康の保持増進と運動実践の重要性を関連づけて理解させる。 ③	B		
			運動によるストレスへの対処や運動処方が大きく健康に貢献していることを理解させる。 ③	B		
	芸 術	興味・関心を持ち、主体的に臨むよう努める	教室の美化をはじめ、芸術的活動をするにふさわしい環境の整備をする。 ②	A	A	・生徒の実態に適した題材を取り入れ、表現の多様性と理解が進むように努め、表現する喜びを実感し豊かな感性を培うことができた。 ・より個々の特性に応じた芸術観を育成していけるよう、基礎力の育て方を工夫し、主体的な学習意欲を引き出しつつ、来年度につなげていきたい。□ □
			自らの目標を立て、その達成ができるよう援助する。 ②③⑫	A		
		基礎技能の向上を図ると共に、学びの継続性を追求する	机間指導をしっかり行い、技術・理解度の不十分な生徒を把握し、個別指導を行う。 ②	A		
			生徒自身の自己評価と相互評価を効果的にさせ、向上心を育成し、学びを効果的に積み上げられるようにする。 ②③	A		
			きめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次時の授業改善に活かす。 ②	A		
		芸術を愛する心情を育て、表現する喜びを実感する授業に努める	生徒の感性を高めるため、よりよいものを提供できるよう、担当者自身も積極的に研修会等に参加し、自己研鑽に努める。 ②⑱	B		
			音楽・美術・書道と科目は異なるが、芸術家として相互に高めあうために授業を参観しあい、研究協議すると共に、情報交換を密にし、協力体制をとっていけるようにする。 ②	B		
			芸術教育を通して生徒の心に触れ、豊かな感性を培えるよう、望ましい人間関係の構築に努める。 ②	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	外国語	充実した授業を展開する。	目標に沿った授業プランを毎時間示し、日々の授業の評価を丹念に行う。②③	A	A ・コロナ禍の不測の事態に備えて普段からICTを活用し、授業時間を確保することができた。 ・教科会を通して教員間でデジタル教材等について共有できた。 ・ALTの活用や問題点を教科として考え、授業の充実に努める。 ・小テストやプレゼン等を計画的に行い、観点別評価を明確にする。
			タブレットや電子黒板を活用し、授業や課題等に生かす。	A	
			授業終了後に指導内容を点検し、改善点を明らかにし、次時間に生かす。②③⑬	A	
		基礎力の向上を図る。	小テスト等を利用して理解度を把握し、不十分な場合は補習や課題等を課す。①	A	
			授業目標に沿ったきめ細やかな指導を行い、成果と課題を明確にし、作問に生かす。②③	A	
			学習内容の定着のため、休み時間や放課後に質問の時間を設ける。①	A	
			英検準2級・2級取得を目標に基礎力を充実させる。①⑥	A	
		家庭学習習慣の定着に努める。	家庭学習の定着を推進する方法について探求し、評価に反映させる。①	B	
		英語がわかる喜びを実感する授業への改善、アクティブラーニング手法を取り入れた授業づくりに努める。	担当者間で相互に授業を公開し、授業内容や方法等について科内で協議する。②⑬	B	
			生徒が対話や協働学習を通して学ぶことで、課題解決能力を育む指導法や授業研究に努める。②⑱	B	
			ALTを積極的に活用するとともに、自らも交流に努めることで自己のコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解の態度の手本となる。②	B	
	家庭	生徒の実態に応じた指導を工夫する。	高校生活や青年期の課題を自覚させ、目標の実現に向け自ら学ぼうと思えるような指導方法の改善に努める。②	A	B ・18歳成人に向けた授業内容の充実に努める。 ・問題解決型の実習を取り入れながら、学習の過程で技能を習得しながら課題解決に向けて試行錯誤し、思考を深めさせる学習方法を実施する。 ・ICT機器の効果的な活用方法の充実に努める。
			個々の活動や進歩の状況など、学習状況が把握できるようにし評価の充実に努める。③	A	
			実験・実習の充実に努める。②	B	
		社会変化に対応した授業改善に努める。	実践的・体験的な活動を通じて深い学びになるように努める。②	B	
			家庭や地域の生活について課題を見つけ解決する能力を養うために問題解決型の授業の充実に努める。②	B	
			授業において、ICTの活用や視聴覚教材の活用の充実に努める。②④⑤	B	
		ICTの活用により働き方改革を推進する。	ICTを活用し、教材準備の効率化や業務の効率化を意識し働き方改革を推進する。⑱⑤⑦	A	
			ICTを活用し、教材準備の効率化や業務の効率化を意識し働き方改革を推進する。⑱⑤⑦	A	
			ICTを活用し、教材準備の効率化や業務の効率化を意識し働き方改革を推進する。⑱⑤⑦	A	
	情報	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用する能力を育成する。	情報活用能力を育成するために、問題解決に関連したデータの収集・分析の授業を実施する。②⑦	B	B ・大学入学共通テストの科目となるので、対応できる知識を身に付けさせることができる授業へと改善が必要である。
			問題解決能力を育成するために、情報及び情報技術を活用した授業を実施する。①⑦	B	
			主体的・対話的で深い学びを実践するために、グループによる問題解決型の授業を実施する。②③	B	
		情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。	情報や情報技術の活用に必要な法規や制度、マナーを身に付けさせるために、情報社会の問題点について考えさせる授業を実施する。⑧⑩⑭	B	
		業務の効率化を図り働き方改革を推進する。	授業の教材準備を効率的に行うため、ICTを活用する。⑦	A	
			PDCAサイクルによる評価・改善を行うため、生徒に授業アンケートを実施する。⑳	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	特色ある教育課程の編成と運営	学力向上に効果的な教育課程の研究と改善に努める。②	A	・特色ある(魅力のある)学校づくりを進めた上での広報活動の充実を図り、志願者数を増やす努力をしていかなければならない。 ・働き方改革を進める上で、勤務時間以外は電話がつかまらないようにする必要がある。 ・新型コロナウイルスに関する欠席等の扱いを臨機応変に対応していかなければならない。 ・ICT関係の業務が多く、担当者の配置・人数等を検討しなければならない。
		観点別評価の方法及び年間指導計画の作成、利用について改善を継続する。③	A	
	授業時間の確保	授業時間の確保と、曜日のバランスの工夫をする。②	A	
		出張・年休等では振替を行い、授業の確保に努める。②	A	
		業務改善を行い、働き方改革を進める。②③	B	
	校内研修の充実	人権教育研修・ICTを活用した授業研修・コンプライアンス研修において本質的理解に努める。②⑪⑲	B	
		研修内容を教員間で共有し、資質・能力の向上に努める。②	B	
	広報活動の充実	学校案内の充実や、説明会の積極的参加により広報活動に努める。⑮⑯⑰	A	
		県のフォトニュース、本校Webページの活用により、広報活動の多様化に努める。⑮⑯⑰	B	
		オープンスクールの内容を検討し、中学生や保護者への広報活動の充実を図る。⑮⑯⑰	A	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	職員のコミュニケーションを通して共通理解を高め、「チームとして」協力して生徒指導にあたる。⑧⑱	B	生徒生活環境において、校内では授業で落ち着いた環境中を作ることができたが、服装・頭髪・遅刻など生徒指導を行う機会が増えてきた。また生徒の通学マナーや生活状況等について指導もあった。外部機関との連携も活用しながら、今後も継続して指導を行っていきたい。
		登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。挨拶の励行に努める。⑧	A	
		ルールを守り、マナーを向上させ、規範意識を高める。⑧	A	
	生徒理解	面談等個別指導の機会を多く設け、生徒理解に努める。④⑧⑫	A	
		生徒に対しては声かけや、職員間では生徒についての情報交換を積極的に行う。⑧⑱	B	
	交通安全教育の推進	定期的に街頭指導を行い、自転車乗車マナーのチェックを行う。⑨	A	
		自転車点検を積極的に行い、整備状況・ステッカー確認等の指導を行う。⑨	A	
	安心して学べる学校づくり	学校内外の危険箇所把握に努め、生徒が安全に学校生活を送れるように環境を整備する。⑨⑳	B	
		PTA、関係諸機関との連絡を密にとり、事故防止に努める。⑨⑪	A	
		危機管理、不審者侵入対応マニュアルに基づき、早急に事態収拾に努める。⑨⑪	B	
		スマートフォン等の安全な利用やルール作りを推進する。⑩	A	
教育相談	教育相談の充実	相談しやすい体制と雰囲気の確保に努める。⑭	B	SCと協力し、困難を抱える生徒の支援に努めた。生徒の悩みの解決に向けて、今後も学年や担任と更に連携を図っていききたい。
		生徒の悩みの早期発見と情報共有に努め、学年やSCと連携して援助する。⑭	A	
	特別支援教育の理解と実践	校内外の研修に積極的に参加し、研修成果を活用する。⑭	B	
		特別な支援を必要としている生徒の理解に努め、必要に応じてチーム援助に協力する。②④	A	
特別活動	ホームルーム活動・生徒会活動の活発化（自主性・協調性の育成）	ホームルームの組織や常置委員会を中心に、学校生活の改善を図らせる。⑫⑬	B	過去2年間、学校行事はコロナ禍の影響でほとんどが中止となっていたが、開催方法はともかく、野球応援を除いて年間を通して行事を実施できたことは大きな収穫である。また、生徒会役員選挙も、会長職は決選投票となるなど活性化した。 一方、各種委員会活動は活発化したとは言い難く、生徒各自に学校運営に携わる当事者としての場を提供することが課題である。
		生徒会活動を活性化し、生徒一人ひとりが主体的により良い学校生活づくりに参加するよう促す。⑬	B	
	学校行事の充実（帰属意識・連帯感の涵養）	各種行事(儀式的・文化的・体育的・勤労奉仕的)をバランスよく実施し、集団の一員として協力する態度を養う。⑬	B	
		生徒会を中心に、学校行事やボランティア活動などに協力することで、諸問題を解決する姿勢を育む。⑫⑬⑱	B	
	部活動の活性化（体育的・文化的資質の向上）	適切な指導の下、生徒の自主的実践的な活動を充実・発展させる。⑫⑬⑭	B	
		各競技・コンクール等の応援や壮行会、表彰式などを通して、高い意識で活動する姿勢を育成する。⑬	B	
	「豊かな心」の育成	「道徳・道徳プラス」の授業を、実施学年との連携を図りながら充実させる。⑭	A	
		生徒会役員を中心に、マナーアップ運動やボランティア活動を積極的に企画・運営すると共に、働き方改革も考えていく。⑬⑲⑳	B	
	キャリアパスポートを活用し、様々な学びを、自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成	様々なツールを用いて生徒の成長を促す対話的な支援を行い、自らの学習状況やキャリア形成を見据えた振り返りや自己評価を適切に行わせる。⑫⑬⑭	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の実態に即した進路指導の充実に努め、進路意識の高揚を図る	学年進行に伴った適切な進路学習や進路ガイダンス等を行い、生徒の進路意識を高め、一人一人の進路目標 ④⑤⑬	A	家庭学習の時間の減少が課題である。生徒個人の進路希望や生活パターンに配慮しつつ、十分な学習時間を確保できるよう働きかけが必要である。また、特進クラスの編成と運営について、生徒数や部活動参加状況などを鑑みながら、職員間で共通理解を持って効果的に進めていきたい。「就業体験学習」への意識が低いため、低学年からの意識付けに努めたい。「看護体験」については、参加人数に制限があるため、進路ガイダンス等での補充を模索したい。
		就業体験学習(インターンシップ)や一日看護体験を行う。 ⑤	B	
		「進路ニュース」を発行し、進路に関する情報をタイムリーに提供する。 ⑥⑬	A	
	学習習慣の確立に努め、基礎学力の向上を図る	進路希望調査及び学習実態調査を行い、その結果をもとに各学年・教科での検討を進め適切な対策を取る。 ①④	A	
		家庭学習を習慣化させ、授業に対する取り組みの改善を図る。 ①	B	
	国公立大学合格者数の増加と四大進学率の向上を図る	進路希望に応じたコース編成や特進クラスの編成を行う。 ④⑦	A	
		働き方改革を念頭に、各種模擬試験を計画的に実施し、結果を詳細に分析してその情報を共有化する。また、各学年・教科での有効な対策を取る。 ④⑥②①	B	
		特進クラスの活性化と課外授業の一層の充実を図る。 ④⑦⑬	B	
保健厚生	環境整美の励行及び充実	校舎内外・校庭等の美化に努め、学校生活環境の向上を図り、環境美化・衛生に取り組む。 ⑪	A	コロナ禍での学校生活が3年目となった。感染対策に気を付けながら救命救急講習会、防災避難訓練などの行事を行うことができた。設備面ではトイレの改修などが実施された。引き続き環境整備に努めたい。次年度以降もコロナウィルス対策を含めて対応を工夫していきたい。
		教室や分担区域等の清掃に自主的・積極的に取り組ませる。 ⑬	B	
	心身の健康管理及び安全衛生管理の励行	生徒の健康状態の把握に努め、健康管理、安全衛生の指導助言を行う。性教育講座、救命講習を計画し実施する。 ⑬	A	
		行事や企画を見直し、合理化に努める。 ②①	B	
	学校事故の未然防止、及び地域と連携した防災教育の推進	危機管理、防災、熱中症対策のマニュアルを作成、見直しにより、教職員及び生徒の安全意識の高揚を図る。 ⑪	A	
図書	生徒の基礎学力向上のため、読書の推進を図る	地域との連携による防災避難訓練等を計画・実施する。 ⑪⑬	B	授業での活用や生徒の利用を促進するため、継続的な環境整備をしていくことが必要である。蔵書点検を継続して行い、蔵書管理を徹底する。多くの生徒が利用できるように努める。
		生徒・職員の希望図書を購入し、新着図書の紹介を中心に「図書館通信」を発行する。 ①⑬⑬	A	
		校内における読書の推進を図るため、図書委員会主催の読書会を開催する。 ⑭⑮	B	
	生徒の自主学習を支援するための図書館の充実を図る	進路指導部との連携を図り、生徒の進路選択に役立つ図書等を充実させる。 ①⑥⑬	B	
		図書館内の美化や図書の配置・整備を考え、利用しやすい環境を整備する。 ⑭②①	B	
渉外	家庭、地域、学校及び同窓会との連携強化	生徒の自主学習の場として利用の促進を図るため、授業等で利用する資料を充実させる。 ①②	B	授業での活用や生徒の利用を促進するため、継続的な環境整備をしていくことが必要である。蔵書点検を継続して行い、蔵書管理を徹底する。多くの生徒が利用できるように努める。
		登校指導、祭礼巡視などの行事を企画し、地域の方々との交流を深める。 ⑨⑮	A	
	PTA活動の活性化	行事を通して、地域の方々との情報交換を積極的に行い、学校運営に生かす。 ⑬⑮	B	
		「研修旅行」、「文化祭のバザー」を企画することで、会員相互の理解を深める。 ⑬⑮	C	
	保護者への情報の提供	常にコンプライアンス意識をもって行動し、保護者との良好な関係を構築する。 ②①	A	
国際交流	国際理解教育	保護者への情報の提供 PTA支部会、広報誌等を通して、本校の教育活動への取り組みを保護者へ広める。 ⑬	A	コロナ禍であることで活動が制限されているため、せめて情報提供だけは行った。講演会・芸術鑑賞会などである。しかし、中止となった行事の代案となるようなものを考えていく必要もあると感じている。
		広く世界に目を向け、自国への理解と認識を踏まえて、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を支援する。 ②	B	
		多様な文化に関する知識や、国際協力についての理解と認識を深める機会を提供する。 ②	C	
事務	予算の適正な執行	公金であるとの認識のもと、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。 ⑬	B	トイレの洋式化や教室照明のLED化は進んだが、ICT教育に対応した教育環境の整備、感染症拡大防止対策、築40年を迎えた施設設備の維持管理等について、限られた予算ではあるが、関係の分掌部と連絡を取りながら進めていく。
	個人情報の管理の徹底	仕事で取り扱う職員、生徒の個人情報について情報の漏えい等がないように厳重に管理する。 ②①	B	
	施設設備の適正な管理	定期的に校内巡視等を実施し、危険箇所を早期に発見する。また、危険箇所や修繕箇所については、迅速な対応を行うことにより施設設備の適正な維持管理に努める。 ⑬	B	
	窓口等での適切な接遇	学校の窓口業務及び電話等での対応を、適切かつ丁寧に行う。 ⑬	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第1学年	基本的な生活習慣を確立させ、礼儀や社会のルールを尊重する心を育成する。また、社会生活における他者への思いやりや助け合う心、規範意識を高める。	服装容姿を整え、校則を遵守させる。 ⑧	B	B	日頃から学年団の中で生徒の情報をよく共有し、問題があれば速やかに対応する体制を整えて、生徒の指導に生かすことができた。 授業以外に課題や小テストを積極的に行い、生徒の基礎学力の向上に努めた。生徒との面談を充実させ、進路希望や本人の適性に応じた文系理系の選択に結びつけることができた。 ICTのさらなる活用を模索し、業務の効率化などに生かしていきたい。
		挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。 ⑧⑨⑭	B		
		その時その時に応じた情報を提供することで、自分自身の将来に対して中長期的な見通しを持たせ、事前準備を行い時間を守る習慣を身に付けさせる。 ⑧	B		
		教員間のコミュニケーションを密にし、ICTを活用して生徒の情報を共有しながら学年担当者全員が学年全生徒の指導を行う。 ⑱⑲	B		
	主体的な学習態度を確立させ基礎学力の充実を図り、進路に対する目的意識を持たせる。	授業の大切さを認識させ、予習復習の徹底を図り、基礎学力の向上に努める。 ①②	B		
		個別面談の充実によって生徒の進路希望を把握し、進路に応じた適切な文系理系の選択ができるようにする。また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を助ける。 ④⑤⑥	A		
		教育情報ネットワークやClassiを活用し、学習活動・進路指導の両面で学びの振り返りを積極的に行わせることで、生徒の意識の向上を図る。 ⑥⑱	C		
		各試験、検定、課外活動に積極的に取り組ませる。 ⑦⑫⑭	B		
	校内外の活動に積極的に取り組ませ奉仕の心を育成し、集団における自己の在り方を学ばせる。	集団行動の意識を理解させ、協調性を育む。 ⑬	B		
		高校生としての自覚を持たせ、規律ある行動も求めるとともに、学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組ませる。 ④⑧⑭	B		
		校内活動・校外活動の両面での振り返りを行わせることにより自己の成長を認識させ、その後の生徒の活動に寄与させる。 ⑫⑬⑲	B		
第2学年	本校を振興させる中核を担う立場としての自覚を促す。その過程で基本的生活習慣の確立と、規範意識の涵養を図る。	服装容姿を整え、校則を遵守させる。 ⑧	B	B	穏やかで協調性のある生徒が多く、修学旅行や学校行事を通して、団結力を高めることができた。 次年度は、個別面談や的確な進路情報の提供を通して、生徒の進路をいかに実現するかが課題である。 また、服装の乱れが目立ってきており、正していかなければならない。 日々の学校生活の中で、自分を律して行動することが大切であることを伝えると同時に、きちんとした生活態度が各自の進路実現につながることを指導していきたい。
		挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。 ⑧⑨⑭	B		
		集団行動の意識を理解させ、協調性を育むとともに、規律ある行動も求め、学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組ませる。□ ⑫⑬⑭	B		
	最終学年を見据え、生徒にとって望ましい進路指導を早い時期から具体的に、個に応じた形で行うように努める。	タブレットを使用した授業を展開し、探求学習への意欲や授業の大切さを認識させ、予習復習の徹底を図り、基礎学力の向上に努める。 ①②③	B		
		個別面談の充実。生徒の進路希望を把握し、進路に応じた適切な文系理系の選択ができるようにする。また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を助ける。 ④⑤⑥	A		
		教員間のコミュニケーションを密にし、ICTを活用して生徒の情報を共有しながら学年担当者全員が学年全生徒の指導を行う。 ⑱⑲	B		
	生徒の学校生活の成果について、生徒が具体的に可視化できるように努め、それによって生徒のより一層の成長を促す。	教育情報ネットワークやClassiなどのeポートフォリオを活用し、学習・進路両面で、学びの振り返りを自主的に行わせ、その後の生徒の活動を向上させる。 ⑥⑩⑲	B		
		各種検定・課外活動・校外活動に積極的に取り組ませることにより、生徒自身が目に見える形で自身の努力を評価できるよう支援する。 ①⑦	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第3学年	最高学年としての自覚と責任に基づく自律的な生活を促し、社会にとって望ましい人間性の育成に努める。	服装容姿を整え、校則を遵守させる。 ⑧⑳	B	B	入学時から引き続いてのコロナ禍で、集会・学校行事等の実施回数が少なく、集団で行動する際に規律ある行動ができなかった。集団行動のルールや協調性を育成に課題が残ってしまった。 ICT機器を活用して情報共有を行い、意見交換を行うことで会議等の時間短縮となった。効果的な使用についてさらに研修が必要ではないか。
		挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。 ⑧⑭	B		
		手帳を活用することで自己管理能力を向上し、事前準備を行うとともに時間を守る習慣を身に付けさせる。 ⑧	B		
	主体的な学習態度を確立し、基礎学力を充実させる指導により進路の実現につなげる。	教員間のコミュニケーションを密にし、ICTを活用して生徒の情報を共有しながら学年担当者全員が学年全生徒の指導を行う。 ①②③	A		
		授業の大切さを認識させ、予習復習の徹底を図り、基礎学力の向上に努める。 ⑥	B		
		教育情報ネットワークやClassiなどのeポートフォリオ活用し、学習活動・進路指導の両面で、学びの振り返りを自主的に積極的に行わせ、その後の生徒の活動を向上させる。 ⑥⑦	B		
		各試験、検定、課外活動に積極的に取り組ませる。□ ⑱	B		
	校内外の諸活動に積極的に取り組みせ、集団・社会における自己の在り方を学ばせる中で感謝の気持ちを育成する。	集団行動の意識を理解させ、協調性を育む。□ ⑫⑬⑭	C		
		高校最高学年としての自覚を持たせ、規律ある行動も求めるとともに、学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組ませる。 ⑫⑬⑭	B		
	将来の生き方について考えを深め、進路実現に向けて指導の充実を図る。	個別面談の充実。生徒の進路希望を把握し、個に応じた進路実現を目指す。また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を助ける。 ④⑤⑥⑳	B		
		講演会や学校主催の進路行事などを通して、生徒及び保護者の進路意識の啓発に努める。 ④⑥	B		

※評価基準： A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:概ね達成できている。 D:不十分である。 E:できていない。